

2012年(平成24)3月

カルメル  
靈性センターニュース



2012年3月

274号

## 目次

### 特集

教皇ベネディクト十六世の

259 回目の一般謁見演説(3) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・ 48

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

## 特 集

### 教皇ベネディクト十六世の 259 回目の一般謁見演説（3）

「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について

2011年2月16日（水）午前10時30分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の259回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011年2月2日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第3回として、「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.2.17）

※ 霊性センターニュース1月号～4月号に連載中です。

（前号からの続き）

『カルメル山登攀』は、靈魂の段階的な清めという観点に基づいて霊的な歩みを解説します。靈魂の清めは、キリスト教的完徳の頂に上るために必要とされます。このキリスト教的完徳の頂を象徴的に示すのが、カルメル山の頂上です。清めは、神のわざと協力しつつ人間が歩む道として示されます。それは、神のみ心に反するあらゆる執着や愛情から靈魂を解放することを目指します。清めは、神との愛の一致に達するために完全なものでなければなりません。

それは、感覚的生活の清めから始まり、3つの対神徳（信仰、希望、愛）を通じて得られる清め、すなわち、意図、記憶、意志の清めがこれに続きます。『暗夜』は「受動的」側面を解説します。「受動的」側面とは、靈魂の清めの過程における神からの働きかけです。実際、人間の努力だけでは、人格の悪い傾向や習慣の深い根源に達することができません。人間には、このような根源を抑制することしかできず、それを完全に引き抜くことはできません。そのためには神の特別な働きが必要です。神は靈魂を徹底的に清め、ご自身との愛の一致にふさわしい者にしてくださいからです。

聖ヨハネはこのような清めを「受動的」と呼びました。なぜなら、この清めは、たとえ靈魂がそれを受け入れたとしても、聖霊の不思議なわざによって実現される

からです。燃え盛る炎である聖霊は、あらゆる不純なものを焼き尽くします。清めの状態にある霊魂は、暗夜の中にいるかのように、あらゆる試練にゆだねられます。

聖ヨハネの主要著作が示唆する以上のことは、わたしたちが彼の広く深い神秘的教えの重要な点に近づくことを可能にしてくれます。聖ヨハネの教えの目的は、聖性、すなわち神がわたしたち皆を招く完徳の状態に達するための確実な道を示すことです。十字架の聖ヨハネの考えでは、神によって造られた、存在するすべてのものはよいものです。わたしたちは被造物を通じて、これらの被造物に自らの刻印を残して下さったかたを見いだすことができます。しかし、神をそれ自体として、すなわち三位一体の神として知るために人間に与えられた唯一の力は、信仰です。

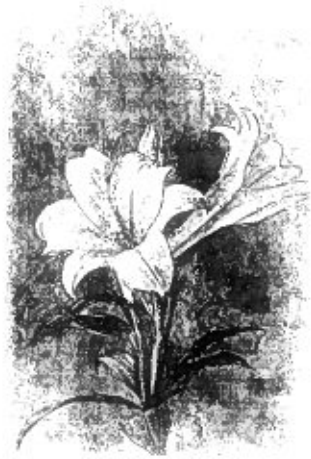
神は、人間に伝えようと望まれたすべてのことを、イエス・キリストのうちに語られました。イエス・キリストは肉となった神のことばだからです。イエス・キリストは父のもとに行くための唯一、決定的な道です（ヨハネ 14・6 参照）。造られたものは皆、神と比べれば無です。神を離れては何も意味がありません。それゆえ、神との完全な愛に達するために、他のすべての愛をキリストにおいて神への愛に造り変えていただかなければなりません。これが、神のうちで造り変えていただくためには、清めと内的な無化が必要だと十字架の聖ヨハネが述べる理由です。

神のうちで造り変えられることこそが、清めの唯一の目的なのです。この「清め」は、単に物質的なものをもたないこと、あるいは用いないことではありません。むしろ、霊魂を清め、自由にするのは、事物に対する無秩序な依存を排除することです。

すべてのことを、神を人生の中心また目的として位置づけなければなりません。確かに、長く辛い清めの過程は、個人の努力を必要とします。しかし、真に中心となって清めを行うのは神です。人間にできるのはただ、「準備すること」、神の働きに心を開き、神の働きを妨げないことだけです。対神徳を実践するとき、人は自らを高め、自分の努力に価値を置きます。信仰、希望、愛が成長するリズムは、清めのおざ、すなわち、神のうちで造り変えられるに至るまで神と少しずつ一致していく過程とともに歩みます。

(次号に続きます)

# 心の泉





DE IMITATIONE CHRISTI  
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十二章 人生のみじめさ

6 人間の弱さ

つねに悪に傾きがちな人間とは、なんと弱いものなのであろう！今日、あなたは罪を告白し、明日、また同じ罪をくり返す。今あなたは、何かを避けようと決心するが、しばらくすると、何の決心もしなかったかのように行動する。実に、私たちはこれほど弱く、これほど気が変わりやすいのであるから、自分をさげすみ、何一つ自分にとりえがないと思うのがあたりまえである。また神の恵みによって、苦勞してやっと得たものを、怠りのために一瞬にして失ってしまうこともある。

朝のうちからこれほど冷淡になっている私たちは、生涯の日暮れになってはどうなるのであろう？良心の平和と心の安全とを、もはや得たかのように、今から休息をとろうとする者はわざわざいである（一テサロニケ 5・3 参照）。私たちの行為には、まだ聖徳のしるしさえ、あらわれていないのである。実際は、よい修行者のように聖徳を身につけることについて、まだまだ教えてもらわなければならないことが多い。そのように思えるなら、将来、自分の欠点を改め、靈的により高く進もうという希望がもてるであろう。

死の宣告を 主よ、  
あなたはどのように受け止められたのでしょうか。  
あなたは「いのち」であり、いのちを与えられる方。

イエスの体は震え、魂も打ち震えています。  
「いのち」である方が、死の宣告を聞かれるとは・・・  
全能なる神が、いくら自ら望まれたとはいえ、  
現実に恐れにおののく人性を持っておられるとは。  
死の宣告を前にして、確かにあなたは震えておられる。



死とは、  
聖母マリアが与えられた体と、聖霊の与えた魂が分かれたること。  
もちろん、神性は常にあなたの体と魂に留まっている、  
でも人としての魂と体は別れてゆく。

この死の時は わたしたちにも訪れ、その時 魂と体は離れてゆく。  
イエスよ、あなたが「その時」震えられたように、  
わたしたちも死を前にして、身震いする事でしょう。  
あなたは「いのち」であり、わたしたちは自分の生命を愛しているからです。  
あなたの死の功德により、わたしたちにも死を受け入れることを教えてください。  
あなたも死を受け入れられたのですから、  
死の本当の姿を見ることができるようになってください。

#### 十字架上の死

「すべては成し遂げられた」。「父よ、わたしの霊をみ手に委ねます」  
……そして、息を引き取られる。  
イエスよ、あなたの最後の息を頂き、その行方を追い、  
その息吹にのって父のもとに行きたい。  
わたしの魂も、あなたの息吹に運ばれてゆきますように。  
わたしの魂があなたの苦しみにより、大きく広がり、  
豊かな実りをもたらすものとなりますように。  
神の息吹、イエスの息吹、  
受肉されたみことばよ、その息吹をいただきたい、自分のものになりたい。

～尊者マリー・エウジェンヌ ocd の十字架の道行きより～

よい四旬節を・・・

## 無常迅速 しょうし 生死事大

九里 彰 くのり

この後、「各誼醒覚、謹勿放逸」と続く。禪寺の時を告げる木版もっばんに刻まれている言葉である。時は瞬く間に過ぎてゆく。私たちの生と死に一体どう意味があるのか。目を覚まし、無駄に時を過ごすことなく、この一事を問えということであろう。ふわふわと楽しいことや、舌や目や耳に快いものを追い求めている現代人に、いかほどのインパクトがあるのか。

3月11日を迎える。あれ以来、新聞を手にする、三面記事ではなく、まず一面、二面を見る。そこには、福島第一原発の現状や放射線量の地図や数値が出ている。最近では、毎日出なくなってきたが、なお毎日載っているのは、被災者の数である。

死亡 15853 人、不明 3282 人。

この数字は重い。避難所生活を余儀なくされている人々の中には、病気が悪化して亡くなる方や、将来を悲観してか喪失感からか、自殺する方が、相次いでいる。大震災以来、「死」について考える日本人が多くなったということだが、それはまた、戦後の日本、現代社会に対する警鐘ではないだろうか。

実際、現代人は、科学技術の目を見張るような進歩の前に、この世の「生」のみに心を奪われるようになり、あの世とか「死」については、できる限り考えないように努めてきた。スポーツやスクリーン（映画、TV）が人々の関心を引き、スポーツの勝者や映画スター、タレントが人々の憧れ、アイドル（偶像）となって行った。この世の「生」を謳歌する若者中心の文化であったと言える。

しかし、人間の「死」や無常に目を留めない「生」は、人間の生き方を問わない、きわめて上滑りした享乐的な「生」にならざるを得ない。身体や知性が発達しても、人間的には脆弱で幼稚な人間が増えることとなる。西欧文化に絶大な影響を与えた古代ギリシャの哲学者プラトンは、「ただ生きることではなく、よく生きることが問題なのだ」と言った。師のソクラテスも、哲学とは「死の準備」に他ならないと言っている。永遠の命、変わることはないものを見つめない文化は、この世の諸価値に翻弄されることになる。

あなたの天を、あなたの指の業を私は仰ぎます。月も星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたがみ心を留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう。(詩 8・4-5)



# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (152)



## 霊的な本を霊的に読むこと

読書は、しばしば、情報を集めることや、新しい洞察と知識を得ることや、新しい分野の事柄を習得することなどを意味します。それによって、私たちは、学位やディプロマや修了証明書を手に入れることができます。しかし、霊的読書は、それらとは異なります。それは、単に霊的な本を読むことではなく、霊的な仕方でも霊的な本を読むことなのです。それも、ただ読むだけでなく、読まれること、言葉をマスターするだけでなく、言葉によってマスターされることが求められています。私たちが知識を得るためにのみ、聖書や霊的書物を読んでいるかぎり、その読書は、私たちの霊的生活の助けにはならないでしょう。私たちは、真に霊的な人とはならず、霊的な事柄について非常に博識となることができるのです。

霊的な本を霊的に読む時、私たちは、自分の心を神の声へと開くのです。時々、私たちは、読んでいる本をすすんで下に置き、その言葉を通して神が私たちに話しかけていることに、ただ耳を傾けなければならないのです。

(0415)

## 言葉を肉とならせること

霊的読書は、私たちの霊魂のための食べものです。私たちが、ゆっくりと、聖書やすぐれた霊的書物の言葉を、自分の頭に入らせ、心にまでくだらせる時、私たちは別の人間になるのです。言葉は徐々に、私たちの内で肉となり、私たちの全存在を変容します。こうして、霊的読書は、私たちの内で神の言葉の受肉の継続となるのです。キリストであるイエスの内に、また彼を通して、神ははるか昔に肉とされました。神の言葉を読み、それについて黙想することの内に、またそうすることを通して、神は今も私たちの内に肉となり、私たちを今日における生けるキリストとするのです。

神の言葉を、愛と大いなる畏れをもって読み続けましょう。

(0416)

(九里 彰訳)

## 四 旬 節 第 2 主 日 (B)

“これは私の愛する子、これにきけ。” (マルコ 9:2-8)

今日の福音はイエスのご生涯の栄光の瞬間を告げています。イエスは三人の弟子を連れて高い山に登り、彼らの前で神の栄光に輝く姿とされました。その時、“これはわたしの愛する子、これに聞け”という天の御父の声が聞こえました。これはわたしたちが日々、いつも共にいてくださる神に心に向け、親しい交わりのうちに生き、心に響くイエスの声に従って生きるようにとの神の促しです。四旬節の間、イエスにしっかり結ばれて、常にその招きに“はい”と応え、これに従って生きることが出来ますように。

主の変容の次第は、一般に、四旬節第二主日の福音で朗読されます。聖マルコはこれを信仰の完全な啓示として示しています。主のご変容の様子を見たのはイエスの親しい三人の弟子だけでした。ペトロと二人の兄弟、ヤコブとヨハネです。イエスは彼らを高い山の上に連れてこられました。山は神の現存を象徴しています。福音史家はご変容の様子を伝えます：イエスは神ご自身の光、輝きを反射してまばゆいほどに白くされました。その両側にはモーセとエリアがいてイエスと語り合っています。モーセは神の掟を託された人であり、エリアは最も偉大な預言者です。二人はユダヤの伝統全体を代表している人たちです。彼らはイエスの十字架と受難の苦しみについてイエスに語っており、御父を慰める者となっています。

自分の目の前で起こったことを見てペトロは非常に恐れました。イエスの神的なお姿を表わすのに適切な言葉を見つけることが出来ませんでした。ペトロの恐れは人となられた神の現存の中に居る自分の小ささであり、そこに居るには全くふさわしくない者であるという思いでした。彼は弟子たちの代弁者となり、この神聖な幻影が長く続くよう望みました。ペトロは神の現存を意味する三つの仮小屋を建てたいと思いました。一つはイエスのため、一つはモーセのため、もう一つはエリアのために。雲の中から御父の声が聞こえたのは、三人の弟子たちがずっとそこに留まっていたと思うような慰めに満ちた状況の中でした。“これはわたしの愛する子、これに聞け。”イエスの使命は今確かなものとなりました。弟子たちに対してはイエスの言葉と行われることの全てに完全に従うようにとの御父の命令です。イエスの悪に対する拒絶、苦しみ、死、そして復活にも・・・一連のことが終わったとき幻は消え、弟子たちのそばにはいつも彼らと共なるイエスだけが居られました。

イエスにとって、ご自分の使命は大変重要でした。弟子たちもその使命を担うものとして呼び集められました。彼らは、イエスに聴き従い、神の愛がイエスの内に、イエスを通してどのように繰り広げられるかを学びました。何の威厳もなく失望のどん底に捨て置かれたイエスのお姿からも。これは時宜にかなった学びでした。彼らはイエスの歩みを辿り、躊躇することなく、福音と神の国への奉仕のために自分のいのちを捧げました。今日わたしたちもイエスに聴き従い、アブラハムのように、身近におこる全てのことは、究極において神の栄光と自分の幸せのためであると確信する、信仰と信頼を神に願いましょう。(Sr. Paulina)

「イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである」(ヨハネ 2, 25)。

この語句は、「ヨハネによる福音」で、イエスの宣教活動の始めに位置づけられる「神殿の清め」、(この出来事は「共観福音書」では、宣教活動の終わり、受難に続く部分におかれています)、そして後続のニコデモとの対話、(これはイエスの受難と十字架の死を先取りし、その意義を明らかにするものですが)、この二つの出来事を橋渡しする移行の部分にでてきます。そして、教会の典礼は、今日の福音前の詠唱を「神はひとり子をお与えになるほど世を愛してくださいました」とのニコデモとの対話の続きから取っています。これを見ますと、「清め」と神の愛の啓示の頂点、イエスの十字架の死を結ぶ深いつながりを想像できます。そして、典礼に関して記憶に止めておくべきことは、四旬節第三主日が、「洗礼志願者」を聖土曜日の洗礼に準備する最終の歩みを強化するものとなっていることです。このために、「神殿の清め」の記事が朗読に選ばれていると言って過言ではないでしょう。神殿の清め、それは、洗礼の洗いを連想させることは当然ですが、わたしたちの心の中に残り続けている不純なもの、清められるべきものが、何であり、どれほど深くわたしたちを汚染しているものであるかをも、感じ取らせてくれます。むしろ、洗礼を求める心の動機そのものにも染み込んでいた不純なものが、洗礼の恵みの中に誠実に生き続けてゆくにつれ、気付かされ、清められてゆくと言えます。

実に、神殿における両替人も、いけにえの動物たちを売っている商人たちも、神と人々を結ぶ営み、神から律法を通して示された営みに奉仕する者であった、しかし、人間の営みは、その出発点は神からのものであっても、いつしか人間の手垢で汚染してしまっている、これが現実でしょう。洗礼の望み、恵みも、その例に漏れないのではないのでしょうか。しかし、それは、洗礼を延期し、洗礼を軽んじる理由になるのではなく、むしろ、このような不純な自分をも招き、洗礼の水を通して御独り子の十字架の贖いの血の中に清めてくださる、この恵みを、より謙虚な心と感謝を持って受け入れることになるはずのものです。「何が人間の心の中にあるかをよく知っておられた」。このイエスの知識に参加するのは、自分の力で心の深層までを分析することによってよりは、ひとり子を与えるほど、わたしたちを愛していてくださる方に信じ、導かれてゆくことによるのです。 ルカ 渡辺幹夫

## 四旬節第4主日(B)

「神はその独り子をお与えになるほどに世を愛された」 (ヨハネ3:14-21)

私たちは、四旬節の第4主日を過ごしています。本日の福音で、イエスは彼の愛が全人類に及んでいることを示されています。イエスの十字架には救いの恵みと、あふれるほどの愛が示されていて、私たちはイエスの十字架にイエスのみこころ、慈しみ、あわれみを知ります。本日の福音では、同じく神の代理人であり神の民の救い主であるモーセとの対比が見られます。この聖書の箇所で、イエスは旧約聖書の時代に起きた一つのできごとを引き合いに出しています。イスラエルの人たちは砂漠で、自分たちが歩み来た状況についてひどく不平を言ったので、神は彼らを罰して蛇の疫病を送り、彼らは死にました。神の命令で、モーセは杖の上にブロンズの蛇を上げ、「蛇に咬まれた人は誰でもこのブロンズの蛇を見ればいつでも治りました」。ヨハネはイエスも上げられると言っています。ヨハネにとってイエスが「上げられる」ということは、イエスが十字架に上げられるということと、復活のときに御父とともに栄光に上げられるということの両方の意味を含んでいます。

ヨハネはここで私たちの救いの神秘の全体、世に対する限りない神の愛を要約しています。私たちがイエスを通して永遠の命を持つことができるように神は独り子をくださるほど世を愛されたという福音は言っています。神はここで神にとっていちばん貴重なあるものを犠牲にされます。神ご自身の独り子です。私たちが独り子の中に、独り子を通して、命を得るためです。私たちにイエスは新しい命です。ブロンズの蛇を見るというまさにそのことが蛇に咬まれたイスラエルの人たちに命をもたらし、イエスがニコデモに約束なさったように、イエスを見るということは一人ひとりにとっての新しい命を意味します。信仰のうちにイエスを見上げる人は皆、救われ、奪われることのない命、「永遠の命」を与えられます。神が御子を送られたのは救うためであって、裁くためでも咎めるためでもないイエスは強く言われます。イエスは裁くためではなく、救うために来られました。イエスは光の中を歩くことができるように道、真理、命を示しに来られました。イエスは光です。イエスは唯一の道です！イエスは唯一の真理です！イエスは唯一の命です！天の御父の恵みと聖霊の力によって私たちを救うことができる方はイエスを除いてほかにありません。キリストへの生きた信仰を通して、私たちは救いの保証を得られます。

反対に、イエスを信じることを拒む人はすでに咎められています。これは別の信仰や、別の宗教や、別の命の見方に真剣に従っている人たちに向けられているものではありません。悪の生活や不道徳の行い、愛ではなく憎しみ、赦しではなく復讐、分かち合うことより欲張り、与えるより奪う生活、などに示されるように、人々が光より闇を好むところに、裁きと咎めは行われます。

この四旬節の間に、私たちの心を見直し、自分の立場を決めましょう。それから、十字架に上げられたイエスと栄光のイエスを眺めましょう。そこに示されている私たちへの神の大きな愛を見ましょう。その愛に私たちの心を開き、まわりの人たちに命と希望をもたらすために私たちを通して愛を溢れさせましょう。

(Sr. Paulina)



「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12, 21)。

この場面で思い出すのは、ある教会の黙想会での出会いです。その黙想会で、参加者に尋ねられました。『イエスの弟子であってよかったなと思うことがありましたか。それは、どんなときでしたでしょうか』と。しばらく祈りのうちに静かに思い起こしていただく時間をはさんで、分かち合いになりました。実は、そのグループの中に、認知症の姑の介護をされている五十代の婦人がいたのです。御自分の気持ちを話されました。

「どうして、このわたしが、姑の介護をしなければならないのか」、「神様は、なぜ、ぼけてしまった姑の介護と言う墓場にわたしを閉じ込めたのですか」、「イエス様、あなたは病人を癒されました。姑の病気を治してください。少なくともこの重荷からわたしを解放してください」、こんな言葉が、いつも心の中でむしかえされていたそうです。この婦人は、病人たちを癒し、重荷から解放する「イエスにお目にかかりたいのです」と、必死に繰り返していたのです。そんな時期にミサの福音の中で「人の子が栄光を受けるときが来た。はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」と聞いたのです。それまでも、幾度も聞いていたお言葉です、しかし、実際に、「地に落ちて死んでいる」と実感している介護の悪戦苦闘の中では、それまでなかったほどの切実さと驚きを伴って聞こえたのです。そのとき、はっと気付かされたことは、イエス様が、一粒の麦、そして地に落ちて死なれたのなら、イエス様にお目にかかりたいのであれば、きっと、自分も一粒の麦のように地に落ちて死ななければならぬのではないか。地に落ちてこそ、イエス様にお会いできるのではないか。何とかして解放されたいと願った介護地獄の中で、イエス様にお目にかかれると期待してよいのだと気付いたのです。

それは、ひとつの悟りのようであったそうです。介護地獄は、地獄のままでも何も変わらない、それで良しと覚悟したのです。不思議な心の平穏さと勇気が湧いてきました。姑にじゃけんにあたり、他の人たちを恨んだり、何の実も結ばない愚痴に慰めを求めることも必要でないと思えたときの平和。このとき、「イエス様の弟子であってよかったな」と思ったのだそうです。

ルカ渡辺幹夫



「草むらに白き十字の花咲きて罪なく人の死にし春逝く」

今年元旦の新聞に載った皇后美智子さまの御歌です。いく度も静かに目に映し、静かに声にのせ、静かに心に落としました。深部で祈りが重なり合い、痛切な悲しみは主イエズスへの思慕となり、涙となりました。

あの3月11日から1年が経ちます。

災害による死者は2万人にもなろうといわれますが、1年を過ぎる今も行方不明者は3千人を越えています。警察庁発表の死亡と行方不明の数字を3月以来毎日たどっていますが、先の夏ごろから死亡は同じ数字が幾日も動かずに示され、時には10日も2週間も続くことが多くなりました。12月に至っては15844の数が1ヶ月近くもそのままでした。死亡の確認ができないのだと思われます。もはや私たちが考え得るご遺体というものではなくなり、科学的な検査によってようやく確認されて、お名前もわかって、数字のひとつひとつが動くのでしょうか。各地の遺体安置所には親しんだ愛おしい者を探し求める人が今も訪れているのです。

とても想像はかなわないのですが、たとえ一片の小さな遺骨であっても、それは、あの日あの時を当り前に一緒だったかけがえのない大切な人との対面であるはずです。思い浮かべることをも絶する限りない痛ましさに打ち震えます。日を追うごとの困難はこれからもより一層となるのでしょうか。

時の経過、年月の流れは、あらゆる全ての人に公平であり共通するものですが、同時にこれほどの別個のものはないようです。

一切のことがらに係ることなく日が昇り日が沈むこと、1年の季節が違わずに移ろうこと、この事実は私たちにとって時には喜びであり、時には厳しい悲嘆でもあること、そしてその体験はどうしようもなく一人ひとりが別個であることをあらためて思い知ります。

この1年ほど人のかけがえのなさということに、深く深く接したことはありません。何が何でもこの人でなければならぬ、悲しいとしか云いようのない徹底したかけがえのなさです。生きていようが死んでいようが何が何でもこの人だという一人ひとりに、この1年たくさん出会ってきたという思いがあります。

宮城県の中学校で200人の全校生徒が時と共に暮る気持ちを俳句にしたとい

う記事を読みました。 母と祖母と3人家族だった亮太という少年は、大切なこの二人を亡くし、「会いたいよ今も変わらぬこの気持ち」と言葉にしています。 これを読んだとき、ああ会わせてあげたい会わせてあげたいとの思いが余りに余って、いつしか私自身がこのお母さんとおばあさんに会いたい、会いたいと焦がれていました。

石巻市では、昨年5月から続けられていた流出物の展示を終わりとしたとありました。 被災した家屋から流されたありとあらゆるものは、月日につれて展示場への来訪者が減ってなお膨大な数が残っているといえます。

ランドセル、卒業証書、家族写真などなど……。そのひとつひとつが人の生きた証であり、喜怒哀楽の日常がこもっているでしょう。 知り合いのアルバムを見つけたのに、この家族はみんな亡くなったということもあったとか。

云うべき言葉もなく、気持ちは行く手を失います。

3月11日を一人ひとりそれぞれに深く体験した私たちは、今現在もきっと何かを考え、何かを気づき、何かを念じているのです。 3月11日以前と同じ自分ではあり得ません。 人間の生命、人間の人生、人間の生活が、不意を衝いてとてつもない巨大なものに呑みこまれ、不条理を孕んでごうごうと押し流される光景は、自分の存在そのものに激しく触れてこない筈はなく、今なお私の底の底を揺さぶり続け、変革を強いています。

「被災による死者は生き直すことができない。しかし、生き残った私らは死者の代わりに生き直すことができる。」とは作家大江健三郎の言葉ですが、この言葉をあの光景とともにかたく身の内に置き、今日という日をしっかりと心ひらいて受けとってゆかねばならないと念じています。

冒頭に記した皇后さまの御歌は、1年を経た今、深い慰めをもたらします。

涙の谷からの万感のレクイエムであり、深い信頼からのたとえようのない肯定のアーメンです。

主イエズスといつもひとつであるように、そして、お言いつけのとおりにもいつも目を覚ましているように。 内から湧きのぼるイエズスへの思慕は、互いの境がなくなるほどに切切なものとなります。

## …ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

### 25. ロス・アンデスの聖テレサ (1900-1920) — その3

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・エンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事からについて話をしているのを好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもとともなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の霊魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いつそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって霊的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の中に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」



ロス・アンデスの聖テレサ(1才6か月)

## —— 祈り ——

私のイエス、あなたをお愛します。私は、すっかりあなたのもです。あなたの神的なご意志に、完全に自分を譲り渡します。イエスさま、私に十字架をお与えください。そして、それを担うための力をお与えください。カルワリオにおける遺棄を下さるか、ナザレにおける喜びを下さるか、どちらでも構いません。私は、ただ、あなたが満足しておられるのを見たいのです。感じるができないこと、岩のように無感覚であることは、私にとって悩みとはなりません。私の最愛のイエス、それは、私があるあなたをお愛していることを、あなたがご存じだからです。私に十字架をお与えください。あなたのために苦しみたいのです。愛することによって苦しむこと、喜びと謙遜をもって苦しむことを、私にお教えください。

主よ、私の靈魂の暗闇がもっと深くなり、あなたが見えなくなることがあなたを喜ばせるのであれば、それは私にとって悩みとはなりません。私は、あなたのご意志を果たしたいのですから。自分の罪と罪びとたちの罪を償うため、苦しみながら私の生涯を過ごしたいのです。それは、司祭方が聖なる者とされるためです。幸福になることは望みません。でも、あなたのためになら、幸福になりたい。いかなる瞬間にも、あなたが私の意志と好みとを自由に利用できるよう、兵士のようでありたい。主よ、あなたにお仕えすることにおいては、勇敢で、強く、寛大でありたい。あなたは、私の靈魂の天配でいらっしゃいますから。

愛するイエス、こんなに憶病で不完全な兵士を見て、あなたは何とおっしゃるでしょうか。私をお許しください。次のときには、もっと良くするようにいたします。あなたのみ心の愛の果てしない大海原に飛び込み、大海の中の一滴の水のように、その中に自分を失ってしまいますように。そして、私の小ささが、あなたのいつくしみの偉大さの中に落ちていきますように。私は、以前よりプライドが高くなっていることに気づいています。でも、お恵みによって私を照らして下さった神様のおかげで、今日からは、もっと謙遜でありたいと望んでいます。自分自身をすっかり忘れたいのです。

私の愛するイエス、自分が悪い者であると感じるたびごとに、あなたへの、そして天国への郷愁を感じます。天国においては、もはやあなたに背くことなく、イエスさま、あなたの愛に酔わされることでしょう。天国においては、私はあなたと一つのものとしてされるのです。そこでは、私の存在も動きも、あなたのうちになければならないのですから。

\* \* \* \* \*

この記事は、跣足カルメル在世会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(聖書カルメル会訳・編)



# いのちの言葉 2月

悔い改めて福音を信じなさい。

(マルコ 1・15)

マルコによる福音書の中で、世に救いを告げるイエスのメッセージは、次のような言葉で始まります。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

イエスが世に来られたことにより、恵みと救いの新たな時代が始まったのです。神の国の訪れを告げるこの全く新しい知らせを、人々が心から受け入れるように、イエスは先の言葉を通して控えておられます。このみ国はすべての人のために、また一人ひとりの近くにもたらされました。

イエスは、この神の国に至るための道をすぐにお示しになります。それは、悔い改めて福音を信じること、生活を根本から変え、神様がイエスを通してあらゆる時代の人々に語られたみ言葉を、イエスの内に受け入れることです。

「悔い改める」と「福音を信じる」というこの二つは、同時に歩みを進めていくことで、片方なしに、もう片方は存在しません。そして両方とも、生きたみ言葉、すなわち、今もなお人々に向かって語っておられるイエスに直接触れる時、初めて起こることなのです。

悔い改めて福音を信じなさい。

神のみ言葉を受け入れて生きる時、私たちの考え方は完全に変えられ、回心が起こります。み言葉を生きるなら、ヨーロッパ人、アジア人、オーストラリア人、アメリカ人、アフリカ人、だれであろうと、すべての人の心の中にキリストの思いが生まれ、だれかに出会ったり、何らかの状況や

現実の社会に直面したりした時にキリストがお感じになるように、その人も感じるようになります。

では福音は、どうして、このような奇跡、つまり深い回心や光に満ちた新たな信仰を呼び起こすのでしょうか？

その秘密は、み言葉の中にはイエスご自身がおられる、という点にあります。み言葉は、単なる勸告やアドバイス、指示や指針、規則、<sup>律</sup>に終わるものではありません。

イエスの言葉の中には、彼ご自身がおられ、私たちに語りかけておられるのです。イエスの言葉は、彼ご自身、イエスそのものでおられます。

こうして私たちは、み言葉の中で、イエスご自身に出会うことができます。そして、私たちがみ言葉を実践するよう望んでおられるイエスの意向にそって、み言葉を心の中に受け入れるなら、私たちはイエスと一つになります。こうしてイエスが私たちの内に生まれ、成長していかれるのです。私たち一人ひとり、次のように要求度の高い、差し違ったイエスの招きを受け入れることができ、また、そうすべきなのは、まさにこのためです。

悔い改めて福音を信じなさい。

福音のみ言葉は、余りにも高度で難しく、普通の生き方や考え方とはかけ離れているように感じ、落胆して、み言葉をただ聞くだけに終わる場合があるかもしれません。不信仰の山を、自分一人で動かさなければならぬと考えるなら、確かにそうでは



う。しかし、み言葉を通して予想外の助けと全く特別な力をいただき、み言葉の内に「歩みを照らすともしび」(詩編 119・105参照)を見出すためには、福音の一つの言葉を生きるだけで十分なのです。み言葉の内には、神様がおられるので、み言葉を生きる時、私たちは自由になり、清められ、回心が起こり、慰めと喜びを受け、知恵が与えられます。

### 悔い改めて福音を信じなさい。

一日の中で何度となく、このみ言葉は私たちの光となるでしょう！

自分やほかの人の弱さに出会ったり、イエスに従うことは不可能で不条理なことだと感じたり、困難に負けて倒れそうになる時いつも、このみ言葉は、私たちの心を引き上げ、新たにしてくれ、やり直すための力を与えてくれるでしょう。

自分の殻を出て神様に向かって心を開き、もっと違った本物の生き方をするためには、心の小さな「方向転換」をすばやく行うだけで、十分です。

そして、福音を生活の指針として選んだ友人とこの経験を分かち合ひましょう。私たちの周りには、キリスト者の共同体が生まれ、また再び花開くことでしょう。

神のみ言葉を生き、その実りを分かち合う時には、一つの共同体が目に見える形で現れ、社会のパン種、塩となって、地上のあらゆる所でキリストを証する、という奇跡も起こるのです。

### キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が逝去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1997年2月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

ある日の朝、近くに住む妹は午前中に買い物に行くと言いました。私も同じ場所に買い物に行きたいと思っていたので、夜と一緒にいこうと提案しようと考えました。私は用事で別の場所に出かけなければならなかったからです。でも、自分の思いを優先させるなら愛ではないと思い直し提案するのをやめました。そして今、自分がなすべきことに集中して生き始めました。同居している私の家族は買物のことを妹に早く伝えた方がいいと勧めてくれましたが、私は妹の自由を尊重することにしました。

時間が経ち、私が出かけようとした時、買い物帰りの妹が私の家に寄ってくれました。そして、私に「これを着ていきなさい。」と一着の服を差し出し、また、私が買いたかったもう一つの物もプレゼントしてくれました。私は、妹に心から感謝しました。

そして妹の自由を尊重して本当に良かったと思いました。私にとって「神の国とその義を求めなさい。そうすればすべての物は与えられる」という体験でした。(Y.Y,長崎)

**お知らせ**  
**キアラ・ルービック 追悼ミサ**  
とき : 3月4日(日)  
14:30から  
ところ : 聖イグナチオ教会・  
マリア聖堂(2F)にて

**いのちの言葉の集い**  
とき : 2月12日(日)  
14:00から  
ところ : 藤沢市労働会館にて

\*詳細は各フォコラーレセンターまで

連絡先  
フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424  
E-mail: [kyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:kyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ: フォコラーレで検索  
<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (56)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 神の母のフェルナンドと十字架のマリア(1)

ここでとても短い、修道召命に関わる聖人の話を二つ取り上げましょう。

神の母のフェルナンド：この人は、ドン・バルトロメ・オルテガ・カブリオの兄弟です。ドン・バルトロメは、ウベダですでに病気になっていた聖人を、夫人のドーニャ・クララや家族の者と共に、とても心にかけて、よく世話をしました。1591年のこの年、フェルナンド神父は、修道院の副院長でした。

修道召命に関わる話は、彼の着衣式が行われた日のことです（訳注：1579年6月24日、カルヴァリオ修道院）。修道者たちは、着衣式に出席していました。ある者たちは、「ご聖体の」という名前を、他の者たちは、「聖ヨハネの」あるいは「イエスの」という名前をつけるように言いました。彼らの意見は一致しませんでした。それぞれが、自分の信心に従って、提案していました。

その時、十字架のヨハネ修士（訳注：院長）が口をはさみ、こう言いました。「では、そういう名前ではなくて（だれかの呼び名の一つではなくて）、神の母のフェルナンドにしましょう。なぜなら、至聖なるおとめは、神の母と呼ばれるのをとても喜ばれるからです」。そしてこれを物語っている当事者は、こうつけ加えています。「こうしてこの証人は、聖なる十字架のヨハネ神父が名づけ、非常に卓越した名前であるということで、神の母のフェルナンドと呼ばれるようになりました」。

十字架のマリア：これは、ドン・フランシスコ・マチュカとドーニャ・イサベル・デアロの娘である有名なマリア・マチュカのことです。彼女は、グラナダ出身で、1563年にそこで生まれました。

彼女は、グラナダの跣足カルメル会の修道女になりました。1595年に、ウベダへ創立者として来て、そこで修院長となり、そこで亡くなりました。たくさんの書きものがありますが、その中に彼女の伝記があります。それは、修道院の文書庫に保存されています。

その自叙伝には、また聖人の列福手続きにおいても行なった証言の中にも、私がお話したい事件についての逸話があります。

大きな病気をした後、ある日、跣足カルメル会の修道女になろうとしている従姉妹が、カルメル会修道院にやって来ました。修道院では、その日、聖人が告解を聞きに来ていました。マリアは、そこで起こったことを、次のように語っています。

(続く)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



## << Communications (時事通信) >>

“イエスの聖テレジアの教育法”をテーマに  
第3回ヨーロッパOCD (跣足カルメル修道会) 養成責任者会議開催

アヴィラースペイン発 (2012年2月5日)

アヴィラの聖テレジア・十字架の聖ヨハネ国際センター (CITeS) で開かれていた第3回ヨーロッパOCD養成責任者会議は、2月4日、閉会いたしました。この会議はヨーロッパと中東の国々に呼びかけられ、21以上の跣足カルメル会管区から養成責任者約50名が参加しました。

会議のテーマは“イエスの聖テレジアの教育法：キリストを中心とする真の祈りの共同体の創造”で、1月30日から2月4日まで開催され、ヨーロッパ管区長協議会によって運営されました。

会議では、次の4つの課題、“教会の実現としての兄弟的生活”、“兄弟的生活：真の自己認識の可能性と召命の識別の場”、“聖テレジアの三つの徳：相互愛、離脱、真の謙遜による人間的成長の場としての兄弟的生活”、“観想的祈りの生活の不変的条件としての兄弟的生活”について話し合われました。

これらの課題を補充するワークショップとプレゼンテーションがありました。ワークショップでは、ノートルダム・ド・ヴィの会員による“子供たちの祈りへの導き”、メモレス・ドミニ在俗会による“テレジア的カリスマの教育法”などがあり、またヨーロッパにおける養成修道院の組織についてのプレゼンテーションもなされました。





# 『わがテレーズ 愛の成長』 重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に挙げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！



マリー・エウジェンヌ 著  
伊從 信子 訳  
サンパウロ 出版 173 ページ

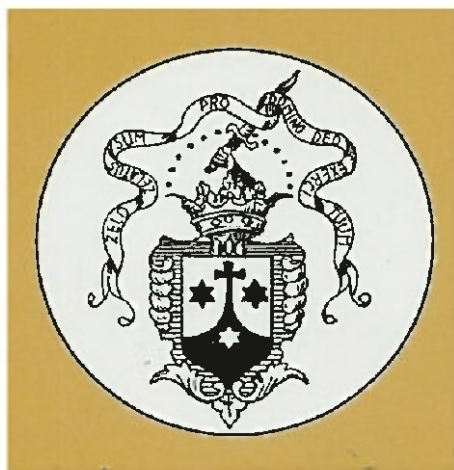
現代社会は 神に飢え渴くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。  
それでも 神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、  
どうしたらよいのだろう。

本書は、この重要な問いに応えてくれる。

「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」神への単純なまなごしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森 一弘 司教～  
表紙のとびらより

# カルメル会の企画案内





# 上野毛霊性センター ～'13年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

## 1. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

3月 9日～ 3月10日

6月22日～ 6月23日

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

## 2. 奉献生活者の為の黙想会

7月26日(木) 18時～8月 4日(土)

福田正範神父

8月16日(木) 18時～8月25日(土)

福田正範神父

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土)

福田正範神父

## 3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

4月19日 「信仰の創始者、完成者であるイエス」

福田正範神父

6月21日 「信仰に生きる」

古川利雅神父

9月 6日 「信仰の成熟」

渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」

中川博道神父

## 4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

7月13日 「ロス・アンデスの聖テレサ」

古川利雅神父

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」

中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」

渡辺幹夫神父

## 5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅神父、神学生

4月28日(土)～4月30日(月) 「希望に生きる」

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、古川利雅神父、神学生  
7月14日(土) 14時～16日(月) 「愛に生きる」

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月5日(木)～8日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートル・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

5月18日(金) 20時～20日(日) 16時 信仰の年にあたって(Ⅰ)

10月19日(金) 20時～21日(日) 16時 信仰の年にあたって(Ⅱ)

9. 聖週間前の黙想会(2013年) 福田正範神父

※注) 2013年

3月17日(日) 18時～3月19日(火) 16時 過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません  
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

# カルメル会四旬節講話シリーズ

## ●テーマ：テレジアは現代に何を語るか

ーアピラの聖テレジアの著作を読む:2015年・生誕500年祭に向かってー

場 所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）  
世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会（TEL03-3704-2171）

日 時：下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料（講話後、主日のミサ）

2月26日 新井 延和神父（カルメル修道会）

「テレジアの涙」「自叙伝」による

3月 4日 九里 彰神父（カルメル修道会）

『完徳の道』に見る「祈りと生活」

3月11日 松田 浩一神父（カルメル修道会）

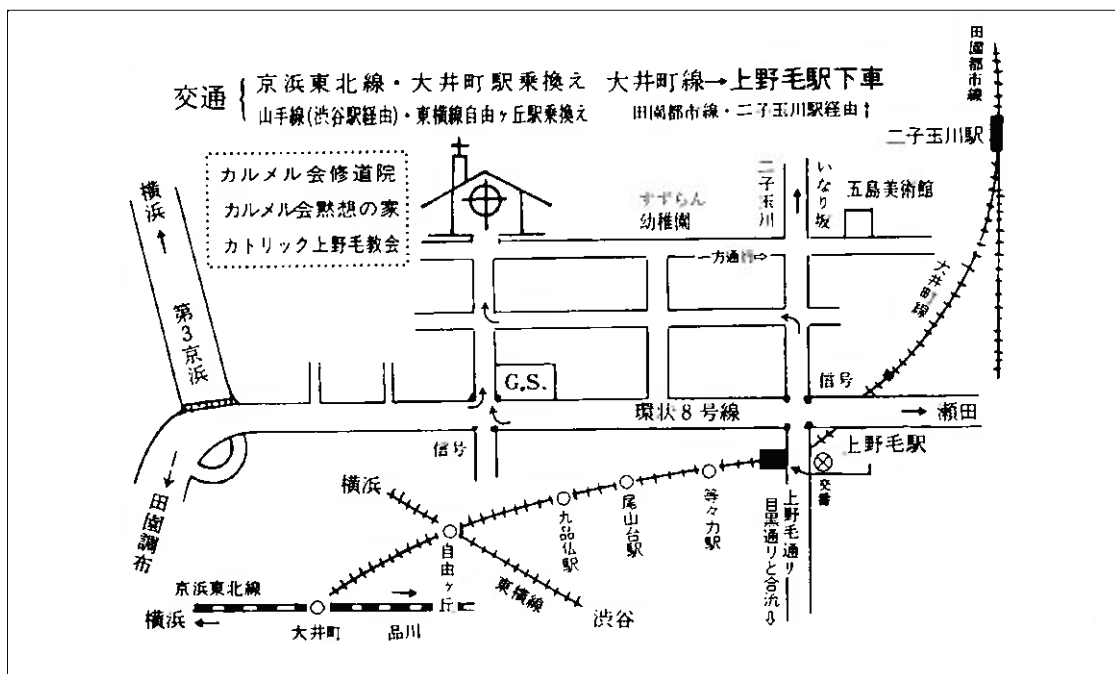
『創立史』にみる信仰の歩み

3月18日 中川 博道神父（カルメル修道会）

「神の住まいであるわたしたち」「靈魂の城」に聴きながら

3月25日 渡辺 幹夫神父（カルメル修道会）

「三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、  
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯」『小品集』による



# 聖書深読黙想会

## 〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。  
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。  
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

\* 日時：2012年3月9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

\* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

\* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）



\* 会費：¥7000

\* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

# カルメル青年黙想会

希望に生きる



日 時 : 4月28日(土) 15時 ~ 30日(月) 16時

場 所 : 聖テレジア修道院(黙想)  
(東急大井町線 上野毛駅下車)  
対 象 : 青年男女(35歳まで)  
定 員 : 20名  
指 導 : 福田正範神父・カルメル会士  
費 用 : 一般 10,000円 学生 7,000円

参加をご希望の方は、ハガキ・  
FAX・E-mailのいずれかで  
住所・氏名・性別・年齢・電話  
番号・所属教会名をご記入の上  
4月21日(土)まで(必着)に  
下記宛てにお申し込み下さい。

(お問い合わせ 及び お申し込み先)

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764 E-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



特別黙想会 《わたしは神をみたい》

さらに 深く信じさせてください

2012年5月18日（金）20時～20日（日）15時

「信仰年」を迎えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

「信仰の門」は

常にわたしたちに開かれています。

神のことばが述べ伝えられ、

わたしたちを造り変える恵みによって

心が形づくられるとき

わたしたちはこの門を通ることができます。

この門に入るとは、

生涯にわたって続く旅に出発することです

教皇ベネディクト十六世

「ホルタ・フィデイ」



- 指 導： 伊 従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 TEL 03-5706-7355
- お申込み： FAX：03-3704-1764 Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)  
または、ハガキにてお申込み下さい。

# 木曜黙想会

2012年度年間テーマ《 信仰 》

信仰の創始者、完成者であるイエス

日 時：2012年4月19日（木） 10時～16時

指 導： 福田正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院  
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL.03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

お申込み・・・FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



## 講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



### カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

3月27日	3月23日
5月15日	5月18日
6月12日	6月15日

### キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

3月6日	3月9日
4月24日	4月27日
5月29日	6月1日

### キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

20	3月16日	「秘跡」(1)
21	3月30日	「秘跡」(2)
1	4月20日	「聖書への親しみを持つことから」
2	5月11日	「天地創造の物語を読む」
3	5月25日	「あなたは誰？」(1)

キリスト教放送局放送中  
ラジオ（月）夜10:15~  
インターネット放送 いつでも

キリスト教放送局

FEBC

2011年秋冬 2011.10.7~2012.3.31



インターネット放送

www.febejp.com

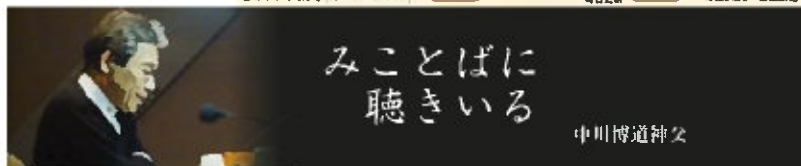
毎日更新



AMラジオ放送

AM1566kHz

毎夜9:30~全線放送



## 2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

### 【一般のための黙想】1泊2日(午後5時～午後4時)

- 3月24日(土)～25日(日) 一粒の麦 九里彰神父  
5月12日(土)～13日(日) 聖母の愛 新井延和神父  
7月 7日(土)～ 8日(日) 聖霊の体験 今泉健神父  
9月 1日(土)～ 2日(日) 神の国の訪れ 松田浩一神父  
11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

### 【聖書深読黙想会】

#### ・ 1日(午前10時～午後4時)

- 4月28日(土) 新井延和神父  
6月30日(土) 新井延和神父  
10月 6日(土) 新井延和神父  
12月22日(土) 新井延和神父

#### ・ 水曜の黙想(午前10時～午後4時)

- 3月14日(水) 聖ヨゼフの愛 新井延和神父  
4月18日(水) 復活のキリスト 今泉健神父  
5月30日(水) マリアとヨゼフ 新井延和神父  
6月20日(水) キリスト教信仰 松田浩一神父  
7月25日(水) 真理 新井延和神父  
9月 5日(水) テレーズと共に 今泉健神父  
10月17日(水) 終生おとめ聖マリア 松田浩一神父  
11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父  
12月12日(水) 受肉 新井延和神父

#### ・ 四旬節の黙想(午後8時～午後4時)

- 3月2日(金)～3月4日(日) 松田浩一神父 神の子主キリストの憐れみ

#### ・ 待降節の黙想(午後5時～午後4時)

- 12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

#### ・ 聖テレーズの黙想(午後5時～午後4時)

- 9月30日(日)～10月1日(月) 伊従信子師

### 【キリスト教霊的同伴】(午後8時～午後3時) 限定10人

- 5月2日(水)～5月6日(日) 松田浩一神父



**カルメル青年黙想会（午後5時～午後4時）**

4月28日（土）～4月30日（月）カルメル会士 観想者イエス。キリストに従う  
11月10日（土）～11月11日（日）カルメル会士 観想者聖マリアに従う

**【一般のためのカルメルの霊性入門】（午後5時～午後4時）**

10月14日（日）～10月15日（月）松田浩一神父  
イエスの聖テレサの靈魂の城の導入

**奉献生活者の黙想（午後5時～午前9時）**

8月2日（木）～8月11日（土）松田浩一神父  
8月16日（木）～8月25日（土）今泉健神父  
12月27日（木）～1月5日（土）新井延和神父

**祭日のミサに参加するために**

【聖週間を祈る】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時  
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。  
4月5日（木）～4月8日（日）[講話なし、各食事つき]  
【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時  
12月24日（月）～12月25日（火）[講話なし、各食事つき]

**講座 『テレジアは現代に何を語るか』**

場所： 京都カテドラル横の教区事務局6Fホール

5月19日（土）午後2時半～

新井延和神父 『自叙伝』による「テレジアの涙」

6月16日（土）午後2時半～

松田浩一神父 『創立史』にみる信仰の歩み

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）  
Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

## カルメル青年黙想会

# 観想者イエス・キリストに従う

カルメル修道会会員は、「観想者イエス」に従って集う生活をしています。この三日間（4/28~4/30）、世間のケータイやネットに縛られた生活から離れて、沈黙のうちに、「観想者イエス」に従って集う生活を体験してみませんか。

日時：2012年4月28日（土）午後5時集合

～4月30日（月）午後4時まで

場所：男子跣足カルメル修道会 宇治聖テレジア修道院（黙想の家）

参加者：18歳～35歳（青年男女）

費用：社会人 7,000円、学生 5,000円

指導者：松田浩一 神父、今泉健 神父

黙想の家のお世話：カルメル宣教修道女会

連絡先：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院 院長 松田浩一

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

<http://www1.ocn.ne.jp/~carmeluj/adress1.htm>

 [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

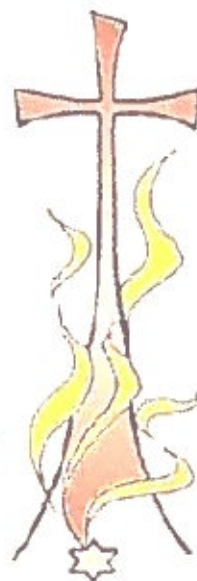
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

### 【開催日】

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土)  |
| ② |       | 2月10日(金)～11日(土)  |
| ③ |       | 3月16日(金)～17日(土)  |
| ④ |       | 4月13日(金)～14日(土)  |
| ⑤ |       | 6月 8日(金)～ 9日(土)  |
| ⑥ |       | 7月13日(金)～14日(土)  |
| ⑦ |       | 9月 7日(金)～ 8日(土)  |
| ⑧ |       | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ |       | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土)  |
| ⑪ |       | 2月 8日(金)～ 9日(土)  |
| ⑫ |       | 3月 8日(金)～ 9日(土)  |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457  
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12・21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的になくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。  
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御尊の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川剛雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エフジェニス 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.バフリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

\* 時間 AM10:00～PM4:00

\* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接

\* 参加費 1,000円

\* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

\* 定員 約30名

\* プログラム  
 10:00～ 祈り・導入・黙想  
 10:30～ 講話(1)  
           黙想・赦しの秘跡または面接  
 11:50～ 風祈り・お告げの祈り  
 12:15～ 昼食  
 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接  
 13:30～ 講話(2)  
 14:45～ ミサ  
 15:30～ 茶話会・分かち合い  
 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市中熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市中東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685



## 2012年度名古屋聖書深読会

第1回 4月30日(月・祝) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月27日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会  
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 \*聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

\* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

\* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

\* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

### ☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき

(来る時間も帰る時間も自由)、靈的にだけではなく

心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min. 聖書朗読と短い講話

14:30～15min. ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min. サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30 終了



各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル靈性センター

〒921-8162 金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院 三上和久神父

TEL 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

「カルメル」  
今日の靈性・冬号  
特集号



2011 冬 No.343

カルメル 2011 特集号

「混迷の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒れ野を行く道

中川博道 2

キリスト教の歴史から学ぶ

川村信三 16

―博い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

使徒職の現場から

釘宮禮子 29

神のいつくしみの中に生きる

松田浩一 37

イエスの聖テレサ

暗夜の中を歩む 十字架の顔ヨハネと共に

九里 彰 51

目次

●二〇一一年特集 マリー・エウジエンヌ(伝) ●

幼きイエスのマリー・エウジニンヌ神父

伊藤信子 3

―神の証し人

マリー・エウジエンヌと共に歩む 幼きイエスの

マリー・エウジエンヌ

ロザリオの祈り

編・栗 中山賢里 11

「混迷の道」におけるアウイラの聖テレシアと邂逅

九里 彰 18

カルメルの靈性の源流を探して

中川博道 24

―その「公則」に見る生活

修道院生活 春夏秋冬

高橋重幸 32

私のよろこび

ペトロ・アロイジオ 38

ナチスのユダヤ人迫害とエディット・シュクティン

須永かおり 46

「カトリシズム」を貫くもの

谷口正子 52

―日本のカトリシズムを守った人々

愛の断章

奥村一郎 59

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーパー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
マリアの御心会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」藤原神父  
FAX 072-802-5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2012年予定

- K 2 03/02 (金) -3/08 (木) 東京・小金井・聖霊会  
B 1 03/10 (土) -3/16 (金) 千葉白子・十字架イエス・ベネディクト  
M 3 03/23 (金) -3/29 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会  
P 1 04/10 (火) -4/16 (月) 西宮・女子トラピスチヌ  
N 1 04/27 (金) -5/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム  
K 3 06/02 (土) -6/4 (月) 東京・小金井・聖霊会 2泊3日  
N 2 06/15 (金) -6/21 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム  
P 2 07/20 (金) -7/26 (木) 西宮・女子トラピスチヌ  
N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム  
P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ  
K 4 10/12 (金) -10/18 (木) 東京・小金井・聖霊会  
N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム  
K 5 12/01 (金) -07/26 (木) 東京・小金井・聖霊会

真命山の靈性



**自然** 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで **祈り**



**静けさ** 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- |        |                                       |
|--------|---------------------------------------|
| 1月12日  | 愛の秘跡である御聖体                            |
| 2月9日   | 信仰の神秘                                 |
| 3月8日   | 「過越」の子羊                               |
| 4月12日  | 教会を生み出す御聖体                            |
| 5月10日  | 御聖体とおとめマリア                            |
| 6月14日  | キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる |
| 7月12日  | 休み                                    |
| 8月     | 御聖体の典礼と美                              |
| 9月13日  | 御聖体と福音の宣教                             |
| 10月11日 | 御聖体礼拝                                 |
| 11月8日  | 終末の宴                                  |
| 12月13日 |                                       |

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、  
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、  
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。  
夏学期:近代前半の霊性と思想(15世紀後半～17世紀) 04/14、04/28、05/12、05/19、05/26、06/02、06/16、06/30、07/07、07/14、07/28、09/01、09/08

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はクルトゥルハイム聖堂。  
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。  
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。  
・通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月14日、5月12日、6月16日、7月7日、9月1日、10月6日、11月10日、12月1日、  
2013年1月5日、2月2日、3月2日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

6月9日(土)10時～10日(日)14時(東村山)、9月29日(土)10時～30日(日)14時(東村山)、  
11月24日(土)10時～25日(日)14時(東村山)、  
2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊6600円程度。

[関西] 10月27日(土)13時30分～28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分  
・木曜日 18時～20時30分  
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。  
4月28日(土)20時30分～5月5日(土)10時  
6月22日(金)20時30分～24日(日)10時  
8月6日(月)20時30分～12日(日)10時  
9月14日(金)20時30分～17日(月)10時  
10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時  
宝塚市  
4月21日(土)13時30分～22日(日)16時  
7月30日(月)17時45分～8月5日(日)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内SJハウス第5会議室  
4月15日(日)、6月2日(土)、2013年1月26日(土)  
2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4階404(予定)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階404(予定)。要申し込み。  
クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。



## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 03/02 人間の苦悩— 悪とは何のためか  
03/09 死— その受け入れと克服  
03/16 人生の完成— 神の内に生きる  
03/23 人間の刷新— イエスに習う人生  
03/30 聖母マリア— 信じる者の原型
- 04/13: 信仰の道— 人生の意義を問う  
04/20: 聖書の人間像— 人間の現状と使命  
04/27: 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること  
05/11: 神認識の道— 理性と経験を通して  
05/18: 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味  
05/25: 歴史と信仰— 神と人間との出会い  
06/01: 新約聖書の神理解— 主なる父  
06/08: 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ  
06/09-10: ●黙想会(東村山)  
06/15: 救い主の役割— 人類の待望  
06/22: 神の国— イエスの告げるメッセージ  
06/29: イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える  
07/06: イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に  
07/13: イエスは誰か— イエスの自己理解  
07/20: 最後の晩餐— 自分を与えるイエス



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

### 【基盤】

- 04/03: 存在の超越と内在—— 神理解への道  
04/08: ◆復活祭ミサ(13時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)

### 【人間】

- 04/17: 人間:神の似姿—— 理性・自由・信仰  
05/01: ○休み  
05/15: 救いの歴史—— 時間における意義

### 【神】

- 05/29: 無限への問い—— 理性による神理解  
06/05: 世界の根源—— 創造的自由・進化・摂理  
06/09-10: ●黙想会(東村山)  
06/19: 人生のうちに働く超越—— 神経験の多様な形  
07/03: 「私は在る」—— 旧約における神の自己啓示と預言

### 【人間への神の関わり】

- 07/17: 神の語りかけ—— 「契約」と「救い主」の待望  
07/28: ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)

### 《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年

3月 24日（土）「尊者マリー・エウジェンヌ神父のメッセージ」

4月 14日（土）特別・祈りの集い（1時～5時半頃）

講話 伊従信子  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL (03)・3594・2247

Fax (03)・3594・2254

E-mail [notredamedevie.japan@gmail.com](mailto:notredamedevie.japan@gmail.com)

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



特別・祈りの集いのお知らせ

2012年復活祭後の土曜日、4月14日



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父は教会により英雄的な徳を認められ、「尊者」の称号を与えられました。

その喜びと感謝のうちに、現代の人々を神へと導くというマリー・エウジェンヌ師の使命が果たされる事を願って、特別・祈りの集いを企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

ープログラムー

**1時～5時半頃まで**・・・通常の祈りの集いと開始時間が変更されていますので、ご注意ください。

- ◆ 講話 『わたしは神をみたい』の著者  
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父の現代における使命
- ◆ 沈黙の祈り
- ◆ ミサ 感謝のミサ (3時ごろ)
- ◆ お茶
- ◆ マリー・エウジェンヌ神父の紹介 (プレゼンテーション)

場所：ノートルダム・ド・ヴィ 参加費：200円

\*\*\*\*\*

お申込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japani@gmail.com

ホームページ <http://www.ndv-jp.org/>

\*\*\*\*\*

尚、通常の祈りの集いは 2012年3月24日(土)です。

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

---

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel: 077-579-7580  
Fax: 077-579-3804  
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ② 12年3月14日(水)～3月22日(木)
- ③ 8月15日(水)～8月23日(木)
- ④ 10月27日(土)～11月4日(日)
- ⑤ 12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月3日(金)～2月5日(日)
- ② 4月27日(金)～4月29日(日)
- ③ 5月18日(金)～5月20日(日)
- ④ 6月15日(金)～6月17日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)



## 「来て、見なさい」

### 「イエスからの招き」

—主よ、私の道はどこに—  
祈りと分かち合い

テーマ：2/26(日)：あなたの家に泊まりたい  
4/15(日)：必要なことはただ一つ

時間：14:00～16:30 \*ミサはありません。

対象：自分の道を探している35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：新宿区南元町6-2 マリアの御心会

電話：03-3351-0297 申し込み2日前

## 5月連休の 黙想会



日時：5月4日(金) 10時から  
6日(日) 昼食まで

テーマ：「イエスからの呼びかけ」

指導：トマス・ヴァルキ師 イエスス会

場所：町田祈りの家 (芳れなきマリア修道会)

対象：自分の道を探している  
35歳までの独身女性

費用：12,000円

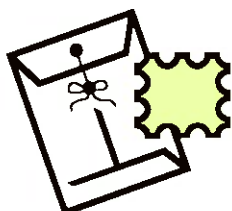
申し込み：マリアの御心会

TEL 03-3351-0297 4月15日まで

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

(※2013年通年の年間購読に関しましては後日、別途告知致します)

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

#### 《修道院で遭難？》

今年の冬は日本海側では大雪となり、大変なことになったが、太平洋側でも最低気温が零下となり、かなり寒い日々が続いた。2月の下旬、某女子カルメル会に数日滞在した。雨の降る中、夕方に到着。新しい司祭室の利用者第一号は私ということで、何となく晴れがましい気分です。部屋に入ったところ、エアコンがきかない。他にはオイルヒーターのみ。そばの温度計を見ると、10度に行くか行かないか。「平気ですか」と尋ねるシスターに、「な～に、若い時はよく山に登って、山小屋で過ごしましたから。どんな状態でも平気ですよ」などと大見えを切ったが、夜がふけるとともに、ぐんぐんと温度が下がって行く。オイルヒーターに手をかざし、明日は修理の人が来てエアコンは直るだろうと楽観していた。ところが、次の日は工事会社の都合でだれも現れず、そのまま。翌々に技術者が現れたが直らず、その次の日も別の人が来たが直らず、「また明日、設置した会社の人に来る」と言う。こちらは、体が冷えたためか風邪をひく寸前。とうとうシスターに「石油ストーブか何かありませんか」とお願いすることとなった。山ではなく、修道院の一室であわや凍死するところであった。結局、エアコンは帰る日の前日の午後、やっと直った。神に感謝！ (P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「4月号」製本日 3月27日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171